

（１）近現代における廃墟保護の建築・都市史的研究

歴史的建造物の保存修復では、何をどのような状態で残すかが問題となる。本研究では、主に19世紀に歴史的建造物保存の理念が大きな議論となった英国を例に、その議論をふまえて20世紀の第二次世界大戦時に戦災を受けた建物の修復がどのように行われたかを調査分析した。その結果、英国においては、戦時中から歴史的建造物が戦災により失われる危機感から記録活動が行われ、むしろ、その活動を通して歴史的建造物の価値が再認識されたこと、古建築保護協会（SPAB）により強く主張された現状維持の原則は大きな影響力を持ったものの、戦災前の状態に復原されたものも相当数あったこと、しかしながら、正直な修復をめざし、痕跡を残す努力をし、また、中には、廃墟を記念碑として、また、より一般的に都市のアメニティとして活用する動きなどもあったこと

が明らかとなった。

（２）歴史的建造物の保存修復活用に関する研究

歴史的建造物は今後、文化的価値はもとより、環境保護の側面からもより積極的な保存修復活用をして行くことが望まれる。現在の生活様式にそぐわない建物（戸建住戸／集合住宅／団地）の改修方法を検討するとともに、とくに、いまだ文化財保護制度により守られる対象となっていない近現代建築の価値を、建築家の創作理念、建設経緯などをもとに明らかにすることで、よりよい活用のあり方を考察する。また、それらの歴史的建造物を点→線→面へと保存の範囲を広げてゆくことを通して、個性ある町並み、地域の創成の方策について考察する。